

# Press Release



\*\*\*\*日本国内の解禁日（EMBARGO）\*\*\*\*

2020年3月13日12時00分

プレスコンタクト：大場郁子 editor@cheiron.jp

## NPO 法人ケイロン・イニシアチブは、研究者とその家族を財政的に支援するための助成金制度 Cheiron-GIFTS を創設

－配偶者キャリア・子供の教育など家族の問題で留学や研究継続を断念する研究者に新たな光

東京 | 2020年3月13日

現在、日本の研究者数は84万7100人<sup>1</sup>。国勢調査の1世帯あたりの人数から計算すると約200万人の研究者家族が日本にいることとなります。これらの研究者の中には、配偶者のキャリアパスや子供の教育、親の介護等の問題で海外留学や研究継続を断念するというような不幸な「家族ブロック」の事例が少なくありません。こうした家族に関する懸念を払拭し、研究者が安心して研究に打ち込んだり、留学の道を選択したりすることができる環境整備を支援することを目的として、研究者の家族に向けた助成金制度「Cheiron-GIFTS (研究者家族留学支援イニシアチブ)<sup>2</sup>」を創設しました。2020年の支援テーマは「研究者の家族の海外でのキャリアパス問題」で、同年4月1日より応募受付を開始します。

今回、NPO 法人ケイロン・イニシアチブにより創設される Cheiron-GIFTS は、日本国外の大学や研究機関に所属または所属しようとしている研究者に帯同する家族を対象とした助成金制度です。基礎科学、先端科学、思想・芸術などの分野において幅広く世界で活躍することを目指す研究者を、その家族と共に支援します。

当法人の専務理事を務める貝沼圭吾は次のように述べています。「日本のサイエンスの国際的競争力は量・質ともに相対的に低下し、異分野融合、国際連携の傾向では先進国中最低の水準にあります。また、研究人材としての海外への中長期研究者派遣者数は一時に比べ減少し、研究者の質の向上と流動性、国際化、ダイバシティといった多様性の確保は急務となっています。しかし、例えば日本から海外に研究留学するにあたっては、情報の面でも金銭的にもその生活を支えるサポート体制が乏しく、研究者本人及び家族の我慢によって成り立っているのが現状です。国や企業による研究推進の仕組みを補完する新しい取り組みとして、我々が焦点を当てるのは、社会の中で最も研究に近いところにいる『研究者の家族』です。」

<sup>1</sup> 総務省統計局、2016年

<sup>2</sup> Cheiron Grant Initiative for Families enabling Tomorrow's Science (Cheiron-GIFTS)

当法人は、海外在住の研究者家族が直面する出産や医療、ビザ、引越し、キャリアプラン、子供の教育などの様々な課題解決に役立つ情報プラットフォームを2019年の設立と同時に立ち上げました。また現在は、研究者の家族が抱える課題についての実態調査を進めています。

当法人の理事長を務める足立春那は次のように述べています。「欧州では、一般市民の科学活動への関心を高めるためのパブリック・エンゲージメントが盛んになってきています。社会の中でも最もイノベーションに近く、研究に参画しやすいところにいる研究者の家族がそのエコシステムに加わるために何が出来るか。研究者家族の一人として、まずその一歩を歩みだせたことを嬉しく思うとともに、海外日本人研究者ネットワークUJAなど海外で活躍する日本人研究者コミュニティとの連携も強化しながら新たな支援体制を展開していきます。」

**Cheiron Grant Initiative for Families enabling Tomorrow's Science (Cheiron-GIFTS)**の詳細情報については別紙および以下のウェブサイトをご参照ください。

別紙1：Cheiron-GIFTS2020 概要

別紙2：Cheiron-GIFTS2020 公募要項

ウェブサイト：<https://www.cheiron.jp/grant>

#### **NPO 法人ケイロン・イニシアチブについて**

従来の仕組みを補完する新しいサイエンス推進の取り組みとして、サイエンスに関わるステークホルダーの枠を変えていく、広げていくことを目指して2019年6月に設立。研究を取り巻くステークホルダーと、家族を取り巻く社会的動向を重ね合わせた新たなサイエンス推進のビジョンを共有する国内外の行政、アカデミア・企業の研究者、研究助成機関、学術出版社、医療・法務・会計・ビジネスの専門家、次世代コミュニティの推進者、そして研究者の家族自身が連携して活動を推進している。中心となる活動内容としては、研究者の家族が直面する課題が見える化すると共に、研究者の家族への情報プラットフォームの提供や助成金制度などを通じた支援体制を構築。産官学で進められてきたサイエンスを、研究者の家族の立場という新たな視点から支援し、更に枠を広げた産官学民の結集によって推進することを目指して取り組みを始動。

<https://www.cheiron.jp/>

<https://twitter.com/cheironjp>

<https://www.facebook.com/cheironjp/>

<https://www.linkedin.com/company/cheironjp>